

令和7年度 地域おこし協力隊 活動報告

(在任期間) 令和5年3月1日～令和8年2月28日

地域おこし協力隊 中郷区岡沢地区

尾崎 太亮

活動の全体像

・ ミッション内容

「雪郷の住人が地域の観光資源を自ら発信・提供できる集落」を実現し、移住者の増加による地域活性化を図る

・ 活動テーマの変遷

1年目 地域理解と関係構築

着任初年度は、岡沢町内会と着任地での生活に慣れ、地域の方々との関係構築を目標に活動した。行事や日常的な作業への参加を通じて、地域の文化や慣習、求められている役割の把握に努めた。

2年目 役割の模索と活動内容の取捨選択

1年目の活動の中で、地域が求める人材像と自身の得意分野との間にギャップを感じ、2年目の活動を始めるにあたり活動内容の見直しを行った。当初想定していた取り組みの中には実現に至らなかったものもあったが、現実的に継続可能な関わり方を模索する期間となった。

3年目 活動調整と総括

2年目の活動を進める中で、うつ病になるなど体調を崩し、約4ヶ月の休職期間を設けることになった。復職後は体調面を考慮し、活動量を調整しながら、退任後を見据え引継ぎを意識した町内会との関わり方を目指した。

主な活動/業務など

町内会行事、共同作業への参加 (1～3年目)

岡沢町内会を知り、住民との関係構築



草刈作業への参加



さいの神への参加

雪郷ロッジの手伝い (1～3年目)

運営補助・日常業務の支援など
受け入れ対応・整備業務支援

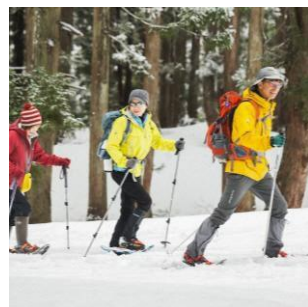


雪郷ロッジ運営作業の様子



地域資源を活用したイベントの実施 (1年目)

住民・来訪者の交流機会創出



実施したスノーシューツアーの様子

町内会組織の取組み (2～3年目)

移住・来訪者向け町内会地図作成・除雪おたすけ隊設立地域の交流イベントの実施



町内会での下ろし作業



安全講習会の実施

雪郷プロジェクトの支援 (1年目)

山林を活用した取り組みの企画運営とサポート



マウンテンバイクツアー 外国人ツアーイベントの補助

中郷区全体での活動 (1～3年目)

広域的な地域活動への参加、ワークショップ
イベントチラシ作成など



雪ん子まつりで
スタードームづくり



公民館でのワークショップの
講師・チラシ作り

事例① 地域資源を活用したイベントの実施 住民向けスノーシューツアー

1年目 (R5.2.24実施)



地域おこし協力隊と行く
てくてくおがざわ
～まぼろしの名水を求めて～
スノーシューで歩く雪郷岡沢

Instagramもよろしくお願ひします！

開催日時
2024年
2月24日(土)
※日の変更により中止となる場合があります。

午前9:00集合 (12時ごろ解散予定です。)

集合場所
岡沢農研研修センター
新潟県上越市中郷区岡沢1353-5

定員
15名 (要申し込み) 親子での参加の組合保護者同伴での参加(小学生未満はなし) 定員に達した時点で受付を閉じます。

参加費
500円 (スノーシューはこちらで用意します)

参加申込
こちらのQRコードのフォームから必要事項を記入してお申し込みください。
申し込み・問い合わせ先(尾崎)
tel: 080-6943-3108
mail: officialozaki438@gmail.com

主催: 新潟県上越市中郷区地域おこし協力隊 尾崎 大亮
tel: 080-6943-3108 mail: officialozaki438@gmail.com
共催: 岡沢町内会

プログラム内容
スノーシューを歩いて、地域おこし協力隊と一緒に岡沢の原山をめぐり絶景スポットを目指します(片道約3km)。初の名水を探し、その水でコーヒーやココアを楽しみます! 登山経験豊富な地元ガイドと一緒に歩くので初心者でも安心です。メープルシロップ採集も見学します。

当日の持ち物
・軽いリュックサック
・長ぐつ
・飲み物
・水をくむ容器
・タオル
・ペットボトルなど

暑くない
寒くない
寒くない
寒くない



・目的

地域住民を対象に、体験を通して岡沢の地域資源の魅力を再発見する機会を提供。

・概要

岡沢の雪山を活用した、地域住民向けスノーシューツアーを実施。参加者の取りまとめとチラシデザインは自ら行い備品手配、ガイドなどは地域の方にも協力してもらった。

・実績

住民同士の交流や、令和7年度には、新たな訪問スポット「旭清水」が整備され、その認知にもつながった。2年目は体調不良により新潟コラボレーターズの方へ引き継いだ。

・地域(参加者)の声

「若い世代があまり山に入らなくなったため、こういう取り組みはありがたい」
「新しい発見もあり、四季を通じて継続してほしい」

事例② 町内会組織の取り組み おかざわ除雪おたすけ隊の立ち上げ

2年目～3年目（冬）



・目的

高齢化と除雪業者の減少により、町内会からの要望に応える形で町内会除雪組織の立ち上げを行った。

・概要

「おかざわ除雪おたすけ隊」の立ち上げに取り組んだ。先行事例の視察（十日町市）、安全講習会の開催、隊員の保険手続き、会計など担当。

・実績

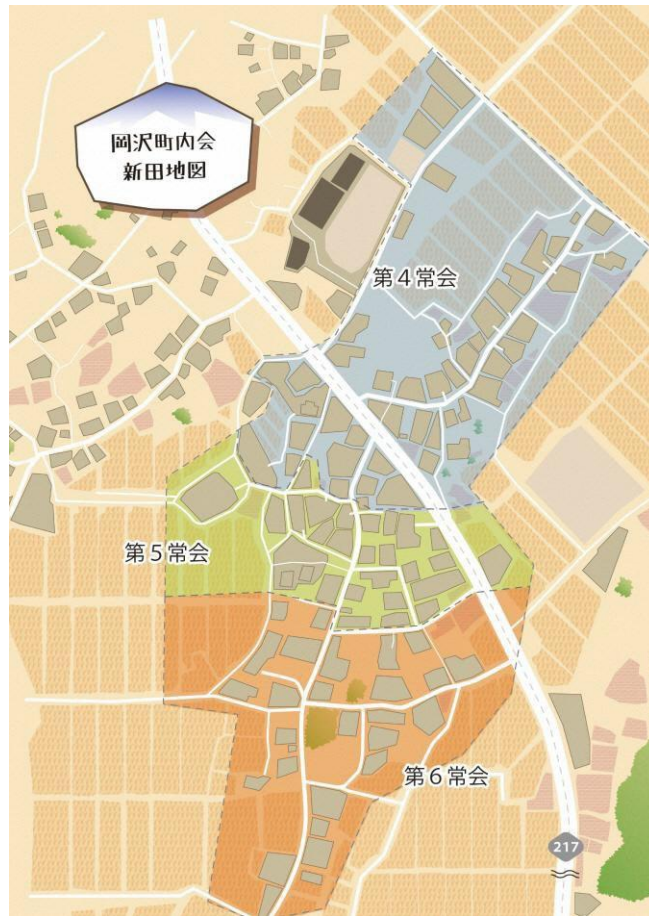
町内会の要援護世帯を中心に年々依頼が増えている状況
出動回数：R5：4件 R6：6件 R7：6件

・地域の声

「業者のほうも依頼がパンクしていて、なかなか人出が見つからない状況なので、町内会に依頼できる場所ができて助かった。」

事例③ 町内会組織の取組み

移住者来訪者向け、町内会住宅地図の作成



・ 目的

回覧、連絡、行事準備時の確認資料や新規住民や関係者への説明資料として使用するための地図を作成する。

・ 概要

町内会の各常会、各組の区分や世帯主名を記載した地図を作成。
地図は各組長へ印刷して配布したほか、編集可能なデータ版を町内会へ提供。

・ 地域の声

「このような地図は昔から欲しかったが、なかなか作る機会がなかったのでありがたい」

そのほかの活動成果

活動内容

- 協力隊、町内会、中郷区総合事務所担当者の3者を交えた定例会議を毎月1回開催した。活動内容の共有と翌月のスケジュール調整を行った。
- 「新米おにぎり試食会」、「二本木駅鉄道まつり」、「なかごう夏まつり」、「なかごう雪ん子まつり」など、中郷区内のイベントに携わった。



なかごう夏まつりでは、イベント用の舞台や流しそうめん企画など



中郷区の農業者と日本曹達株式会社が連携した農産物販売会のチラシ作成を任せられ、地元二本木工場での試食販売会に参加。令和7年度は東京本社での試食販売会にも同行。

3年間活動を通して感じた課題

■ 課題や問題点

- 協力隊の役割や関わり方は地域や行政によって異なり、着任当初は手探りで進める場面が多かった。
- 活動内容や進め方について隊員が主体的に調整する必要があり、活動の方向性を共有する難しさを感じた。
- 協力隊の役割や支援体制をあらかじめ整理・共有しておくことで、より活動しやすくなると感じた。

■ 反省点

- 事前の協力隊の業務のリサーチ不足などがあった。

岡沢町内会と関わる生活でわかったこと

- 自然豊かで豪雪地帯という特徴を持ちながらも、国道18号に近く、市街地へ車で30分程度でアクセス可能であるため、生活圏としては都市郊外の住宅街に近い生活を持つ集落であると感じた。
- 協力隊という立場で町内会の日常に触れることで、地域活動といった生活が多くの住民の協力体制のもとで成り立っていることを実感した。
外からは見えない組織の動きを近い場所で見ることができたことは、在任期間を通じて得られた大きな学びとなった。
- 高度な町内会運営ができていているのは、農業共同体の延長でありつつも、職住分離した現代的な生活形態しており、会計の経験を持つ人が居るなど現代的な町内会の特徴を持っているからだと感じた。
- 薪ストーブのある家は、雪国における暮らしの豊かさを象徴する存在だと感じた。

退任にあたって・今後について

■ 退任後について

- 在任期間を通じて、自身の働き方への向き合い方について見直す必要性を感じた。
- 岡沢町内会とは今後も関係人口として、関係性を維持していきたい。
- 住居に関しては現在の市営アパートを上越市での拠点とし、広域的に活動する予定。

